

2011年度PMからのメッセージ

氏名・所属:石黒 浩(大阪大学大学院 基礎工学研究科 システム創成専攻 教授)

略歴:

1991年 4月 山梨大学工学部情報工学科・助手
 1992年 4月 大阪大学基礎工学部システム工学科・助手
 1994年10月 京都大学工学研究科情報工学専攻・助教授
 1998年 4月 京都大学情報学研究科社会情報学専攻・助教授
 1998年 3月 カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員
 2001年 4月 和歌山大学システム工学部情報通信システム学科大
 学・教授
 2002年10月 大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学
 専攻・教授、ATR知能ロボティクス研究所・第二研究室・客員室長、
 Vstone(株)・特別顧問
 2009年 6月 大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻・
 教授
 2010年 1月 ATRフェロー

専門分野:

知能ロボット
 ヒューマンロボットインタラクション
 アンドロイドサイエンス
 センサネットワーク
 画像認識
 メディアアート

メッセージ:

日本は情報メディアやロボットのハードウェア作りについては、圧倒的に世界をリードしています。携帯電話やパソコンやロボットを作れば、日本ほど性能の高いものを他国は作れません。しかしソフトウェアについては、残念ながら、米国等に及びません。今後日本が技術開発で世界をリードしていくには、ソフトウェア開発能力を持ちながらも、日本独自の新しい情報メディア機器やロボットを開発できる人材を育成したいと思います。

ただし、情報メディアやロボットを狭く捉えることがないようにお願いします。特にロボットに関しては、センサとアクチュエータとコンピュータを備えるいかなるものもロボットです。人と関わり人の生活を支援するすべての機器を情報メディアやロボットと考えています。たとえば携帯電話であってもロボットです。そう考えれば、ロボットと言えないものはほとんど無いかもしれないです。期待するのは、ソフトウェアの技術によって、センサやアクチュエータやコンピュータと、さらには、インターネットやクラウドコンピューティングと組み合わせ、人と関わり、人々にサービスを提供するシステムを開発できる人材を期待しています。

そして、そういったソフトウェアとハードウェアの組み合わせにおいて、世界を驚かせるようなシステムを実現することを期待しています。メディアアートと呼ばれるものでも、ロボットでも何でもいいです。大事なことは、まだ誰も知らないものを提案し、それを実現するということです。まだ誰も知らないことというのは、それがどの程度のものであるか、世の中には基準がありません。自分自身にしかその評価基準はないのです。自分自信で自信を持っている提案を期待しています。

この未踏プロジェクトを通して、採択者と一緒に世界を驚かせることができればと思っています。また、ロボットや情報メディアのハードウェアが必要となるもので、その調達に関して、私の方で手伝えるものについては手伝います。最低限のハードウェアは自らが準備する必要がありますが、自らは準備できないが、こういった、ロボットやシステムに自らのソフトウェアを使えばおもしろいというアイデアがあれば、提案に盛り込んでおいてください。準備できる可能性もあります。

審査基準:

- まだ誰も作ったことがないシステムを作る提案
情報メディアやロボットをどこに使えるかおもしろいかといろいろ考えると、意外な使い方が見つかるものです。そういった、まだ誰も発想しなかったようなシステムの提案を期待します。ただ、それが単なる思いつきではダメです。なぜ、それがおもしろいかという説明をしっかりとください。
- 世の中に普及しそうなシステムやソフトウェアを作る提案
インターネットやクラウドに、情報メディアやロボットを組み合わせることで、比較的簡単なものでも、社会に普及する可能性が高いものを作れる可能性があります。そういった提案を期待します。
- 人の能力や新たな側面をあらわにするシステムの提案
そのシステムを使うことによって、ユーザが、自分とは、人とはどんなものであるかを新たに気がつくということがあります。優れたメディアアートのシステムなどがその例です。そういったシステムの提案を期待します。
- 全く役に立たないシステムの提案
一見役に立たないシステムでも、認知科学的、哲学的に非常に意味のある場合があります。そういった、人や社会の本質を知ることができるようなソフトウェアやシステムの提案を期待します。

いずれの提案においても、プロジェクト推進において十分なソフトウェア開発能力と熱意を持っていることが必要です。